

調布市

【児童・生徒数】
15,938名

【学校数】
28校

【調布市の特色】

- ・東京スタジアムなど国際的な大会を開催する施設があり、地域と連携した事業が多い自治体である。
- ・2019年にはラグビーワールドカップ、2021年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が本市のスポーツ施設にて開催された。



【課題・改善】

- ・授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思う児童・生徒の割合が6月と比べて小学生で4ポイント減少した。

授業及び環境づくりで推進していく必要がある。

- ⇒○主体的に運動に取り組む態度の育成
- 主体的に運動できる場の提供

目標

- 次の設問において、令和元年度調査の全国平均値を目標とする。
- ・運動・スポーツが大切であると感じている児童・生徒の割合
 - ・授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思う児童・生徒の割合
 - ・学校の体育の授業以外で、運動やスポーツを合計で1日1時間以上している児童・生徒の割合

【実態・課題】

- 東京都統一体力テストにおいて令和3年度と令和元年度結果を比較したときに、調布市の児童・生徒の体力は低下している。
 - 1日の総運動時間を1時間以上と回答した児童・生徒は全学年において減少している。
- ⇒運動習慣を定着できるようにする。

【成果】

- ① 運動・スポーツが大切であると感じている児童生徒の割合については変化なし
- ② 1日1時間以上運動している児童・生徒約2ポイント増加
※体力テスト（令和4年度6月比）
※中学校3年生を除く
- ③ 運動する機会が増加した児童・生徒28.6%（10月）⇒51.2%（12月）
※出前授業実施後アンケート（10月比）
※出前授業実施校のみの抽出アンケート
- ④ 関係機関と連携し、運動機会の提供と周知により、ジュニア陸上教室の参加申込人数の増加
小学生：890名⇒1,047名
中学生：47名⇒100名

【取組】

- 多様な運動機会を創出するために、調布市にある環境を生かした走ることに着目した取組
- 授業（体育・保健体育科）における取組
 - ・ゆめおり陸上クラブ・FC東京・メガロス調布と連携した授業を実施
 - 運動機会の創出を図る取組
 - ・小学生タグラグビー大会の開催
 - ・小・中学生ジュニア陸上体験教室の開催
 - 教員の授業力向上研修
 - ・夏季及び冬季休業日に教員研修を実施

【取組（詳細）】

○ スポーツ関係機関との連携した出前授業の取組

- ・ゆめおり陸上クラブによる出前授業（16校）
一流アスリートを指導者として、ハードル走、走り高跳びなど各学校が希望する種目で出前授業を実施
- ・FC東京による出前授業（3校実施）
指導実績が豊富な指導者が、児童・生徒向けのボールトレーニングドリル（あおあかドリル）を基にしたゴール型の授業を実施
- ・メガロス調布による出前授業（3校実施）
体づくり運動としてのサーキットトレーニング、ダンスの授業を学校の希望に応じて実施



アスリートの模範試技を見る児童

○ 運動機会の創出を図る取組



- ・ジュニア陸上体験教室
オリンピック等を招聘し、ジュニア陸上体験教室を行った。小学生は東京オリンピック 110mハードル走の寺田明日香選手、中学生は元 10000m 選手の高尾憲司氏に走り方の基礎・基本及びトレーニング方法を指導していただいた。



上：ジュニア陸上体験教室
下：小学生タグラグビー大会

- ・小学生タグラグビー大会
小学校4年生以上を対象とし、調布市スポーツ振興課、調布市体育協会、全日本ラグビー協会と連携して大会運営をしている。

○ 教員の指導力向上研修

- ・ゆめおり陸上クラブによる教員研修（夏季）
一流アスリートによる短距離走、走り幅跳びジャバリックスローの走・跳・投の実技研修を行った。アスリートからは授業に利用できる指導方法の提案をいただいた。
- ・アスレティックトレーナーによる教員研修（冬季）
「小・中学生9年間を見通した体づくり運動」と題して、講義及び実技研修を行った。実技演習では、小・中学校のつながりや発達段階に応じて指導をいただいた。



左：夏季研修 右：冬季研修